

「二木立の医療経済・政策学関連ニューズレター」

2008年目次（41号～52号）

41号：2008.1.1(火)（本文19頁＋別ファイル12頁）

1. 論文：混合診療禁止は違法？東京地裁判決をめぐる空騒ぎ
（「二木教授の医療時評（その51）」『文化連情報』2008年1月号（358号）：22-25頁）
2. 談話：診療報酬本体プラス改定の意味 行き詰まる医療費抑制政策 負担増路線の登場も（『週刊東洋経済』2007年12月29日・2008年1月5日号：146頁）
3. 学会報告：医療・介護政策の研究と論争の経験に基づいて研究と政策との関連を中心に考える（『社会福祉学』第48巻3号：125-128,2007）
4. 論文：小泉・安倍政権の医療改革—新自由主義的改革の登場と挫折
（『月刊／保険診療』第62巻第12号113-121頁,2007年12月10日。別ファイル：08NL41別）
5. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文
（通算30回。2007年分その8：6論文）
6. 私の好きな名言・警句の紹介（その37）—最近知った名言・警句

42号：2008.2.1(金)（15頁）

1. 論文：医療政策の現状と課題—研究者は政策形成にどのように貢献しうるか
（「二木教授の医療時評（その52）」『文化連情報』2008年2月号（359号）：16-22頁）
2. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文
（通算31回。2007年分その9：7論文）
3. 私の好きな名言・警句の紹介（その38）—最近知った名言・警句

43号：2008.3.1(土)（本文12頁＋別ファイル22頁）

1. 論文：日本福祉大学での教育と研究と校務の23年、そして先へ—専門演習指導を中心として（『現代と文化（日本福祉大学紀要）』第117号（2008年3月31日発行予定）掲載原稿。別ファイル：08NL43別）
2. 最近出版された医療経済・政策学関連図書（洋書）のうち一読に値すると思うものの紹介（その11）：12冊
3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文
（通算32回。2007年分その10：6論文）
4. 私の好きな名言・警句の紹介（その39）—最近知った名言・警句

44号：2008.4.1(火)（本文22頁＋別ファイル10頁）

1. 論文：今後の医療制度改革とリハビリテーション医療（『地域リハビリテーション』2008年3月号（3巻3号）：234-242号）
2. 大学院「入院」生のための論文の書き方・研究方法論等の私的推薦図書
（2008年度版、Ver 10）（別ファイル：08院本推薦.doc）

3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文
(通算33回. 2008年分その1 : 6論文)
4. 私の好きな名言・警句の紹介 (その40) - 最近知った名言・警句

45号 : 2008.5.3(土) (13頁)

1. 論文 : 医療改革 - 希望の芽の拡大と財源選択
(『日本医事新報』2008年5月3日号 (No.4384) : 81-84頁)
2. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文
(通算34回. 2008年分その2 : 7論文)
3. 私の好きな名言・警句の紹介 (その41) - 最近知った名言・警句

46号 : 2008.6.1(日) (19頁)

1. 論文 : 医療費適正化計画の二本柱は開始時から死に体 - 「基本的な方針」のもう一つの読み方
(「二木教授の医療時評 (その54)」『文化連情報』2008年6月号 (363号) : 22-25頁)
2. 講演録 : 日本の医療・介護保険制度改革と保健・医療・福祉複合体
(2008年5月16日 第3回日韓定期シンポジウム・報告)
3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文
(通算35回. 2008年分その3 : 8論文+参考1冊)
4. 私の好きな名言・警句の紹介 (その42) - 最近知った名言・警句

47号 : 2008.7.1(火) (16頁)

1. 論文 : 医療費の財源選択についての私の考えの変化
- 主財源は社会保険料と判断するまでの試行錯誤
(「二木教授の医療時評 (その56)」『文化連情報』2008年7月号 (364号) : 28-33頁)
2. 『福祉社会開発学 - 理論・政策・実際』 (ミネルヴァ書房) 出版のお知らせ
3. 最近出版された医療経済・政策学関連図書 (洋書) のうち一読に値すると思うものの紹介 (その12) : 6冊
4. 私の好きな名言・警句の紹介 (その43) - 最近知った名言・警句

48号 : 2008.8.1(金) (13頁)

1. 論文 : 私が後期高齢者医療制度廃止と老人保健制度復活に賛成する理由
(「二木教授の医療時評 (その57)」『文化連情報』2008年8月号 (365号) : 14-17頁)
2. 論文 : 後期高齢者医療制度の廃止は「無責任」か?
(『日本医事新報』No.4395(2008年7月19日号) : 1頁)
3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文
(通算36回. 2008年分その4 : 7論文)
4. 私の好きな名言・警句の紹介 (その44) - 最近知った名言・警句

49号 : 2008.9.1(月) (23頁)

1. 論文：後期高齢者の終末期（死亡前）医療費は高額ではない
（「二木教授の医療時評（その58）」『文化連情報』2008年9月号（366号）：18～21頁）
2. 論文：医療・社会保障政策の部分的見直しが始まったー「骨太の方針2008」等を複眼的に読む
（「二木教授の医療時評（その59）」『文化連情報』2008年9月号（366号）：21～25頁）
3. インタビュー：「小さな変化」を拾い上げ「希望の芽」が拡大することを期待する
（『Visionと戦略』2008年9月号：1～4頁）
4. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文
（通算37回．2008年分その5：8論文）
5. 私の好きな名言・警句の紹介（その45）ー最近知った名言・警句

50号：2008.10.1(水)（9頁）

1. 論文：混合診療賛成が8割！？誘導的質問の恐ろしさ
（「二木教授の医療時評（その60）」『文化連情報』2008年10月号（367号）：26-27頁）
2. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文
（通算38回．2008年分その6：4論文）
3. 私の好きな名言・警句の紹介（その46）ー最近知った名言・警句

51号：2008.11.1(土)（11頁）

1. 論文：高齢者医療制度ー国民皆保険の理念に反する
（「毎日新聞」2008年10月12日朝刊「発言席」）
2. 最近出版された医療経済・政策学関連図書（洋書）のうち一読に値すると思うものの紹介（その13）：5冊
3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文
（通算39回．2008年分その7：5論文）
4. 私の好きな名言・警句の紹介（その47）ー最近知った名言・警句

52号：2008.12.1(月)（16頁+別ファイル15頁）

1. 論文：社会保障国民会議「医療・介護費用のシミュレーション」を複眼的に読む
（「二木教授の医療時評（その61）」『文化連情報』2008年12月号（368号）：14-17頁）
 2. 論文：オバマ・アメリカ次期大統領の医療制度改革案を読む
（「二木教授の医療時評（その62）」『文化連情報』2008年12月号（368号）：18-20頁）
 3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文
（通算40回．2008年分その8：7論文）
 4. 私の好きな名言・警句の紹介（その48）ー最近知った名言・警句
- 補. 「ニューズレター」年間総目次（41～52号）（別ファイル：08NL目次.doc）
ー医療経済・政策学関連の洋書・英語論文の目次、名言・警句の人名索引付き。

「二木立の医療経済・政策学関連ニュースレター」2008年(41～52号)

最近出版された医療経済・政策学関連図書（洋書）のうち一読に値すると思うものの紹介 2008年目次：合計23冊

43号:2008.3.1（土）その11：12冊

<医療経済学、医療政策、医療マネジメントの教科書>（5冊）

○『医療経済学—国際的視点 [第2版]』(McPake B, et al: Health Economics - An International Perspective. Routledge, 2008, 292 pages) [中級教科書]

○『医療と公共政策』

(Reisman D: Health Care and Public Policy. Edward Elgar, 2007, 362 pages) [中級教科書]

○『 [アメリカの] 医療政策分析—学際的アプローチ』

(McLaughlin CP, et al: Health Policy Analysis - An Interdisciplinary Approach. Jones and Bartlett Publishers, 2008, 437 pages) [中級教科書]

○『医療のベンチマーキングとパフォーマンス評価—DEAを用いた評価』(Ozcan YA: Health Care Benchmarking and Performance Evaluation - An Assessment Using Data Envelopment Analysis (DEA). Springer, 2008, 214 pages +CD) [入門教科書]

○『医療ビジネス』(Cohn KH, et al (eds): The Business of Healthcare. Praeger, Three volumes, 2008, 211+220+268 pages) [中級教科書]

<高齢者ケア>（3冊）

○『高齢人口のための在宅ケア—デンマーク、アメリカ、ドイツの在宅ケアの比較研究』(Doyle M, et al: Home Care for Ageing Populations - A Comparative Study of Domiciliary Care in Denmark, the United States and Germany. Edward Elgar, 2007, 154 pages) [研究書]

○『高齢者の社会的ケアのパフォーマンス指標』(Challis D, et al: Performance Indicators in Social Care for Older People. Ashgate, 2006, 350 pages) [研究書]

○『ケア関連の高齢者のQOL—概念、モデルと実証的知見』(Vaarama M, et al (eds): Care-related Quality of Life in Old Age - Concepts, Models, and Empirical Findings. Springer, 2008, 338 pages) [研究書]

<その他>（4冊）

○『医療の分権化—戦略と結果』(Saltman RB, et al (eds): Decentralization in Health Care - Strategies and Outcomes. Open University Press, 2007, 298 pages) [研究書（論文集）]

○『病院の方針とパフォーマンスの評価—病院方針・生産性研究の寄与』(Blank JT, et al(eds): Evaluating Hospital Policy and Performance: Contributions from Hospital Policy and Productivity Research. Elsevier, 2008, 250 pages) [研究書（論文集）]

○『医療技術の革新—倫理的問題と課題』(Eaton ML, et al: Innovation in Medical Technology - Ethical Issues and Challenges. The Johns Hopkins University Press, 2007, 155 pages) [研究書]

○『医療のマネジメントと政策における流行、誤りと愚かさ』

(Marmor TR: Fads, Fallacies and Foolishness in Medical Care Management and Policy. World Scientific, 2007, 159 pages) [評論（論文集）]

47号:2008.7.1 (火) その12 : 6冊

- 『リベラルの良心』(Krugman P: The Conscience of a Liberal. W.W.Norton & Company, 2007, 296 pages) [一般書]
- 『[医療分野の実証研究の] 確実性の幻想－医療の便益とリスク』(Rifkin E, et al: The Illusion of Certainty - Health Benefits and Risks. Springer, 2007, 239 pages) [概説書]
- 『信頼と医療 [の関係についての] 研究』(Brownlie J, et al (eds): Researching Trust and Health. Routledge, 2008, 221 pages. [研究書 (研究論文集)]
- 『アメリカ国民をもっと健康にする－保健医療政策としての社会・経済政策』(Schoeni RF, et al (eds): Making Americans Healthier - Social and Economic Policy as Health Policy, Russell Sage Foundation, 2008, 398 pages) [研究書]
- 『アメリカの保健医療格差を克服する－I M O報告書を越えて』(Williams RA (ed): Eliminating Healthcare Disparities in America: Beyond the IOM Report, Humana Press, 2007, 398 pages) [研究書]
- 『ヨーロッパにおける労働と健康の不平等』(LundbergI, et al (eds): Work and Social Inequalities in Health in Europe. P.I.E.Peter Lang, 2007, 538 pages) [研究書]

51号:2008.11.1 (土) その13 : 5冊

- 『健康行動の経済学 [論文選] 』
(Cawley J, Kenkel DS (eds): The Economics of Health Behaviours, Volume 1-3, Edward Elgar Publishing, 2008, 588+621+648pages) [研究論文集 (リーディングス)]
- 『喫煙と闘う国際的努力－喫煙抑制政策の経済学的評価』(Goel RK, Nelson MA: Global Efforts to Combat Smoking - An Economic Evaluation of Smoking Control Policies. Ashgate, 2008, 145pages) [研究書]
- 『医療におけるインセンティブと選択』(Sloan FA, Kasper H (ed.): Incentives and Choice in Health Care. The MIT Press, 2008, 418pages) [研究論文集]
- 『アメリカの健康 [と医療の] 格差－社会階級、人種、エスニシティと健康』(Barr DA: Health Disparities in the United States - Social Class, Race, Ethnicity, and Health. The John Hopkins University Press, 2008, 289pages) [研究書]
- 『医師を信頼すること－アメリカの医師の知的権威の低下』(Imber JB: Trusting Doctors - The Decline of Moral Authority in American Medicine. Princeton University Press, 2008, 275pages) [研究書]

「二木立の医療経済・政策学関連ニュースレター」2008年(41～52号)

最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文目次:合計72論文

41号(2008.1.1)

5. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文

(通算30回. 2007年分その8:6論文)

○ [アメリカにおける] 持続的で包括的な医療改革の見通しとは何か?

(Fuchs VR: What are the prospects for enduring comprehensive health care reform? Health Affairs 26(6):1542-1544,2007) [評論]

○ 疾病の定義拡大の意味: [アメリカの] 骨粗鬆症の事例

(Herndon MB, et al: Implications of expanding disease definition: The case of osteoporosis. Health Affairs 26(6):1702-1711,2007) [量的研究 (シミュレーション)]

< 医師—ストライキ・過重労働・処分・医療過誤訴訟 (4論文) >

○ ドイツの医師の「ストライキ」—医師の不満の根源に光をあてる

(Janus K, et al: German physicians "on strike" - Shedding light on the roots of physician dissatisfaction. Health Policy 82(3):357-365,2007) [量的研究]

○ [カナダの] 医師の過重労働: 医師の態度とアウトカムへの影響

(Williams ES, et al: Heavy physician workloads: impact on physician attitudes and outcomes. Health Services Management Research 20(4):261-269,2007) [量的研究]

○ [医師] 処分と常習者 [リピーター医師] — [アメリカの] 州医師免許委員会による医師懲戒処分の評価

(Grant D, et al: Sanctions and recidivism: An evaluation of physician discipline by State medical boards. Journal of Health Politics, Policy and Law 32(5):867-885,2007) [実態調査研究]

○ [アメリカ] ミシシッピ州の医療過誤訴訟と医療費 (Roberts B, et al: Malpractice litigation and medical costs in Mississippi. Health Economics 16(8):841-859,2000) [量的研究]

42号(2008.2.1)

2. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文

(通算31回. 2007年分その9:7論文)

○ 新医療技術が [公的] 医療費に与える影響—イスラエルにおける2007～2007年 [の実証研究]

(Rabinovich M, et al: Impact of new medical technologies on health expenditures in Israel 2000-2007. International Journal of Technology Assessment in Health Care 23(4):443-448,2007) [量的研究]

< 医療・病院経営関連 (6論文) >

○ 病院開設者と財政パフォーマンス: 実証研究における異なる知見は何を意味するか?

(Shen Y-C, et al: Hospital ownership and financial performance: What explains the different findings in the empirical literature? Inquiry 44(4):41-68,2007) [メタアナリシス]

○ 統合質マネジメントモデルに基づくパフォーマンスの改善: 我々はどうのような証拠を持っているか? 体系的文献レビュー

(Minkman M, et al: Performance improvement based on integrated quality management models: What evidence do we have? A systematic literature review. International Journal for Quality in Health Care 19(2):90-104,2007) [文献レビュー]

○ **【病院が医療】 統合提供組織に参加することにより患者が受ける利益：ケアの調整に与える影響**

(Kautz CM, et al: Patients benefits from participating in an integrated delivery system: Impact on coordination of care. Health Care Management Review 32(3):284-294,2007) [量的研究]

○ **【医師所有の専門病院の【医療】市場参入後の【医療】利用の変化**

(Mitchell JM: Utilization changes following market entry by physician-owned specialty hospitals. Medical Care Research and Review 64(4):395-415,2007) [事例研究・量的研究]

○ **【医療における競合する諸価値【の分析枠組み】－（アン）バランスト・スコアカードをバランスさせる** (Wicks AM, et al: Competing values in healthcare - Balancing the (un)balanced scorecard. Journal of Healthcare Management 52(5):309-323,2007) [評論]

○ **【病院ネットワークのパフォーマンス成功の要因：韓国での実証研究**

(Kim K-J, et al: Success factors in hospital network performance: evidence from Korea. Health Services Management Research 20(3):141-152,2007) [量的研究]

43号(2008.3.1)

3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文

(通算32回. 2007年分その10:6論文)

○ **【患者の年齢が入院医療満足度に非線形の影響を与える証拠**

(Moret L, et al: Evidence of a non-linear influence of patient age on satisfaction with hospital care. International Journal for Quality in Health Care 19(6):382-389,2007) [量的研究]

○ **【アメリカの急性期病院における】 正看護師の配置水準と患者アウトカムとの関連－体系的文献レビューとメタアナリシス**

(Kane RL, et al: The association of registered nurse staffing levels and patient outcomes - Systematic review and meta-Analysis. Medical Care 45(12):1195-1204,2007) [文献レビュー]

○ **【アメリカの】 営利病院と非営利病院の看護師配置水準、入院中死亡率、および在院日数【の比較】** (Mark BA, et al: Nurse staffing, mortality, and length of stay in for-profit and non-for-profit hospitals. Inquiry 44(2):167-186,2007) [量的研究]

○ **【医療技術のもたらす生涯【医療】費用・便益** (Cutler DM: The lifetime costs and benefits of medical technology. Journal of Health Economics 26(6):1081-1100,2007) [量的研究]

○ **【薬剤溶出性ステントの経済評価：体系的文献レビューとモデルを用いた費用効用分析** (Kuukasjaervi P, et al: Economic evaluation of drug-eluting stents: A systematic literature review and model-based cost-utility analysis. International Journal of Technology Assessment in Health Care 23(4):473-479,2000) [文献レビューとシミュレーション研究]

○ **【高齢者の転倒と外傷を予防するための地域と救急部門での多面的評価と【個々人のリスクに】 的をしぼった介入：体系的文献レビューとメタアナリシス** (Gates S, et al:

Multifactorial assessment and targeted intervention for preventing falls and injuries among older people in community and emergency care settings: systematic review and meta-analysis. British

Medical Journal , originally published online 18 Dec 2007. In print, 336:130-133,2008) [文献レビュー]

44号(2008.4.1)

**3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文
(通算33回. 2008年分その1:6論文)**

○先生、もっと [治療を] 受けられませんか?がん病棟での誇大なレトリックと痛切な現実との落差 ("Please, sir, can I have some more? The gap between high-flown rhetoric and painful reality on the cancer ward" The Economist, January 12nd,2008.イギリス版) [評論]

○アメリカの [1987年から] 2004年までの年齢 [区分] 別医療費

(Hartman M, et al: U.S. health spending by age, selected years through 2004. Health Affairs 27(1):w1-w12,2008(Web版)) [量的研究]

○自己負担がメディケア医療保険のマンモグラフィ・スクリーニング [受診率] に与える影響 (Trivedi AN, et al: Effect of cost sharing on screening mammography in Medicare health plans. New England Journal of Medicine 358(4):375-383,2008) [量的研究]

○新しい神話: QALYの社会的価値 (Brouwer W, et al: The new myth - The social value of the QALY. Pharmacoeconomics 26(1):1-4,2008) [評論]

<医療満足度と医療事故、医師のバーンアウトとの関連>

○ [自分の受けた] 医療サービスの質が低いと報告した内科入院患者は有害事象や医療事故をより多く経験しているか?

(Taylor BB, et al: Do medical inpatients who report poor service quality experience more adverse events and medical errors? Medical Care 46(2):224-228,2008) [量的研究]

○医師のバーンアウトと患者のアウトカムを結びつける: 医師と患者との2項関係の探究 (Halbesleben JRB, et al: Linking physician burnout and patient outcomes: Exploring the dyadic relationship between physicians and patients. Health Care Management Review 33(1):29-39,2008) [量的研究]

45号(2008.5.1)

**2. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文
(通算34回. 2008年分その2:7論文)**

○西オーストラリア州における死亡前 [3年間の] 入院医療費 [パターン] : ポピュレーション・ベースのデータ結合研究

(Moorin RE, et al: The cost of in-patient care in Western Australia in the last years of life: A population-based data linkage study. Health Policy 85(3):380-390,2008) [量的研究]

○ [入院患者の] 社会経済的状態が在院日数に与える影響を統合した入院医療費支払いのリスク調整式の作成 (Perelman J, et al: Deriving a risk-adjustment formula for hospital financing: Integrating the impact of socio-economic status on length of stay. Social Science & Medicine 66(1):88-98,2008) [量的研究]

○特集・ヨーロッパ [9か国] の [疾患別] 治療費用の変動の分析

(Special issue: Analysing the variation of health care treatment costs in Europe. Health Economics

17(1 Supplement):S1-S103,2008) [量的研究]

○ヨーロッパ7か国の脳卒中入院医療費

(Epstein D, et al: The hospital costs of care for stroke in nine European countries. Health Economics 17(1 Supplement):S21-S31,2008) [量的研究]

○[デンマークの]脳卒中患者の医療の質と死亡率—全国規模での追跡調査

(Ingeman A, et al: Quality of care and mortality among patients with stroke - A nationwide follow-up study. Medical Care 46(1):63-69,2008) [量的研究]

○年齢と手技が虚血性心疾患患者の資源使用に与える影響

(Kuwabara K (桑原一彰), et al: Impact of age and procedure on resource use for patients with ischemic heart disease. Health Policy 85(2):196-206,2008) [量的研究]

○外来医療は[糖尿病性]代謝代償不全の入院を予防できるか?

(Helmer DA, et al: Can ambulatory care prevent hospitalization for metabolic decompensation? Medical Care 46(2):148-157,2008) [量的研究]

46号(2008.6.1)

3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文

(通算35回. 2008年分その3:8論文+参考1冊) 2論文は2007年発表

○予防医療は費用を削減するか? 医療経済学と大統領選挙候補者たち

(Cohen JT, et al: Does preventive care save money? Health economics and the presidential candidates? New England Journal of Medicine 358(7):661-663,2008) [評論]

○予防による医療費増加率抑制の可能性

(Russell LB, et al: Prevention's potential for slowing the growth of Medical spending. National Coalition on Health Care, October 2007:http://www.nchc.org/nchc_report.pdf) [文献レビュー]

○参考:『予防は治療に勝るか?』

(Russell LB: Is Prevention Better Than Cure?, The Brookings Institution, 1986) [概説書]

○専門的緩和ケアの効果—体系的文献レビュー

(Zimmermann C, et al: Effectiveness of specialized palliative care - A systematic review. JAMA 299(14):1698-1709,2008) [文献レビュー]

○ホスピス[利用]がナーシングホーム居住者の公費に与える影響

(Gozalo PL, et al: Hospice effect on government expenditures among nursing home residents. Health Services Research 43(1):134-153,2008) [量的研究]

○[アメリカの]医療連携—医療システムの至る所にある危険な旅

(Bodenheimer T: Coordinating care - A perilous journey through the health care system. New England Journal of Medicine 358(10):1064-1071,2008) [総説]

○統合ケアが[オランダの]ナーシングホームの直接ケアに与えた影響

(Paulus ATG, et al: The impact of integrated care on direct nursing home care. Health Policy 85(1):45-59,2008) [量的研究]

○[アメリカの]ナーシングホーム居住者の入院の予測因子—文献レビュー

(Grabowski DC, et al: Predictors of nursing home hospitalization - A review of the literature. Medical Care Research and Review 65(1):3-39,2008) [文献レビュー]

○入院患者は個室から便益を受けるか？－文献レビュー

(van de Glind I, et al: Do patients in hospitals from single rooms? A literature review. Health Policy 84(2-3):153-161,2007) [文献レビュー]

48号(2008.8.1)

3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文 (通算36回. 2008年分その4:7論文)

<高齢者と医療費、医療費の増加要因>

○高齢者の死亡前医療費が高額という神話

(Pan CX, et al: Myths of the high medical cost of old age and dying. International Journal of Health Services 38(2):253-275,2008) [総説]

○日本の教育病院における【入院】患者の年齢と医療資源利用との関連 (Ishizaki T (石崎達郎), et al: Association between patient age and hospitalization resource use in a teaching hospital in Japan. Health Policy 87(1):20-30,2008) [量的研究 (多変量解析)]

○年齢と余命のどちらが【将来】医療費をよりの確に予測するか？

(Shang B, et al: Does age or life expectancy better predict health care expenditures? Health Economics 17(4):487-501,2008.[量的研究 (多変量解析)]

○何が医療費を増加させるか？ポウモルの「不均衡成長」【モデル】再訪

(Hartwig J: What drives health care expenditure? Baumol's model of "unbalanced growth" revisited. Journal of Health Economics 27(3):603-123,2008. [量的研究 (多変量解析)]

<医療経済学の理論問題>

○アメリカ国民は質調整生存年1年にいくら支払う意思があるのか？

(Weinstein MC: How much are Americans willing to pay for a quality-adjusted life year? Medical Care 46(4):343-345,2008) [評論]

○線形操作変数法を医療サービス研究と医療経済学において用いることへの警告

(Terza JV, et al: The use of linear instrumental variables methods in health services research and health economics: A cautionary note. Health Services Research 43(3):1102-1120,2008) [理論研究]

○健康の社会的不平等：二分法か漸増か？ [4か国の] 国民公衆衛生プログラムの問題設定の比較研究 (Vallgarda S: Social inequality in health: Dicotomy or gradient? A comparative study of problematizations in national public health programmes. Health Policy 85(1):71-82,2008) [量的研究]

49号(2008.9.1)

4. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文 (通算37回. 2008年分その5:8論文)

○地域居住の高齢者に対する学際的転倒予防プログラムの費用対効果：ランダム化試験

(Hendriks MRC, et al: Cost-effectiveness of a multidisciplinary fall prevention program in community-dwelling elderly people: A randomized controlled trial (ISRCTN 64716113). International Journal of Technology Assessment in Health Care 24(2):193-202,2008) [量的研究]

○政策的文脈でのメディケアの〔慢性〕疾患管理

(Linden A, et al: Medicare Disease management in policy context. Health Care Financing Review 29(3):1-11,2008) [概説]

○マサチューセッツ州で2001-2003年に導入されたP4Pが医療の質に与えた影響

(Pearson SD, et al: The impact of pay-for-performance on health care quality in Massachusetts, 2001-2003. Health Affairs 47(4):1167-1176,2008) [量的研究]

○セーフティネット病院と非セーフティネット病院との医療の質の変化の比較

(Werner RM, et al: Comparison of change in quality of care between safety-net and non-safety-net hospitals. JAMA 299(18):2180-2187,2008) [量的研究]

○病院の手術件数、外科医の手術件数、およびガン手術に伴う患者の〔入院〕医療費

(Ho V, et al: Hospital volume, surgeon volume, and patient costs for cancer surgery. Medical Care 46(7):718-725,2008) [量的研究 (多変量解析)]

○〔アメリカ・フロリダ州の急性期〕病院の管理費用の変動

(McKay NL, et al: Variations in hospital administrative costs. Journal of Healthcare Management 53(3):153-167,2008) [量的研究]

○ギリシャの公立病院での医師への謝礼

(Liaropoulos L, et al: Informal payments in public hospitals in Greece. Health Policy 87(1):72-81,200) [量的研究]

○アメリカの医療経済学者：われわれは何者で何をしているか？

(Morrisey MA, et al: US health economists: Who we are and what we do. Health Economics 17(4):535-543,2008) [量的研究]

50号(2008.10.1)

2. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文

(通算38回. 2008年分その6:5論文)

○医療費〔増加〕は健康アウトカムを改善するか？イギリスの〔疾患〕プログラム予算データから得られた証拠

(Martin S, et al: Does health care spending improve health outcomes? Evidence from English programme budgeting data. Journal of Health Economics 27(4):826-842,2008) [量的研究]

○グローバリゼーションと医療〔ツーリズム〕－競争を輸入する

(Globalisation and health - Importing competition. Economist August 16th, 2008, pp.10,70-73) [評論]

○公的資金で賄われている医療制度の民営化：アメリカの経験

(Himmelstein DU, Woolhandler S: Privatization in a publicly funded health care system: The U.S. experience. International Journal of Health Services 38(3):407-419,2008) [評論]

○〔アメリカの〕医療経済学者の医療政策に対する見解

(Morrisey MA, et al: Health Economists' views of health policy. Journal of Health Politics, Policy and Law 33(4):707-724,2008) [量的研究]

○韓国の医師の仕事への満足と医療保険審査機関への信頼

(Lee H-Y, et al: Job satisfaction and trust in health insurance review agency among Korean

physicians. Health Policy 87(2):249-257,2008) [量的研究]

51号(2008.11.1)

3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文

(通算39回. 2008年分その7:5論文)

○質に応じた支払い(P4P)を超えてー [アメリカにおける] 医療提供者への支払い方式改革の新しい諸モデル

(Rosenthal MB: Beyond pay for performance - Emerging models of provider-payment reform.

New England Journal of Medicine 359(12):1197-1200,2008) [評論]

○[アメリカの]電子カルテを用いている病院はより良質の医療を提供するか?ー 3種類の疾患についての検討

(Kazley AS, et al: Do hospitals with electronic medical records (EMRs) provide higher quality care? An examination of three clinical conditions. Medical Care Research and Review

65(4):496-513,2008) [量的研究]

○ [アメリカの] 病院の費用非効率と健康アウトカム [との関係]

(McKay NL, et al: Cost inefficiency and hospital health outcomes. Health Economics

17(7):833-848,2008) [量的研究]

○ドイツの病院の費用効率と技術効率: 開設主体は重要か?

(Herr A: Cost and technical efficiency of German hospitals: Does ownership matter? Health

Economics 17(9):1057-1071,2008) [量的研究]

○医薬品部門において医療政策の目標と産業政策の目標をバランスさせること: オーストラリアの教訓

(Morgan S, et al: Balancing health and industrial policy objectives in the pharmaceutical sector: Lessons from Australia. Health Policy 87(2):133-145,2008) [事例研究]

52号(2008.12.1)

3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文

(通算40回. 2008年分その8:7論文)

○年齢と手技が脳血管疾患患者の資源利用に与える影響 (Kuwabara K(桑原一彰), et al:

The effect of age and procedure on resource use for patients with cerebrovascular disease. Journal of Health Services Research & Policy 13(1):26-32,2008) [量的研究]

○選択 [の拡大] は患者にどんな便益をもたらすか? 文献レビューと含意の評価

(Fotaki M, et al: What benefits will choice bring to patients? Literature review and assessment of implications. Journal of Health Services Research & Policy 13(3):178-184,2008) [文献レビュー]

○根拠に基づいた医療と患者の選択 [との対立]: [イギリスの] 心不全医療の事例

(Sanders T, et al: Evidence-based medicine and patient choice: The case of heart failure care.

Journal of Health Services Research & Policy 13(2):103-108,2008) [質的研究]

○アメリカの高齢者の死亡場所ー州の在宅・地域サービス支出は自宅死亡を促進するか?

(Muramatsu N, et al: Place of death among older Americans - Does State spending on home- and community-based services promote home death? Medical Care 46(8):829-838,2008) [量的研究]

○上流における【根本原因に立ちむかう】解決策：【アメリカの】補足的所得給付プログラムは高齢者の障害を減らすか？

(Herd P, et al: Upstream solutions: Does the supplemental security income program reduce disability in the elderly? The Milbank Quarterly 86(1):5-45,2008) [量的研究]

○【オランダの】施設入所リスクが高い高齢者の地域基盤の社会サービス利用の評価

(van Bilsen PMA, et al: The use of community-based social services by elderly people at risk of institutionalization: An evaluation. Health Policy 87(3):285-295,2008) [量的研究]

○余命延長により生じる非関連医療費—それは医療介入の経済的評価に含めるべきか？

(Rappange DR, et al: Unrelated medical costs in life-years gained - Should they be included in economic evaluations of healthcare interventions? Pharmacoeconomics 26(10):815-830,2008) [総説]

「私の好きな名言・警句の紹介」2008年分 人名索引

注：カッコ内は「ニューズレター」の号数。各行ごとに「ニューズレター」掲載順。外国人は姓のみ（ただし例外あり。例：シャーロックホームズ）。映画・テレビドラマ・芝居のセリフはその名称（「」表示）。2005,2006年に紹介したものの再掲分は一部略。

あ行

ウオルフレン(42),江見康一(42),岡本真也(42),イチロー(42,47,49,51),大貫静夫(43),石川忠雄(43),市川染五郎(43),宇沢弘文(43),ウッド(43),井本直歩子(43),上原浩治(45),「相棒」(46),小川国夫(47),あさのあつこ(47),宇井昇(47),石井慧(47),アミエル(48),石井裕(48),大林丈史(48),秋元波留夫(48),ウエルズ(49),碓義朗(49),稲田龍一(49),上野雅恵(49),上田敏(50),遠藤章(50),石井義彦(50),天野桂子(50),緒形拳(51),泉谷しげる(51),内村航平(52),オバマ(52)

か行

「ガリレオ」(41),河野稠果(42),姜尚中(44,52),木田元(44),「歓喜の歌」(44),小島裕治(45),梶山邦夫(45),蜻蛉(45),クラーク(45),カプール(46),クルーグマン(47),亀山静香(47),「神様のパズル」(48),ゲーテ(49),北島康介(49,50),草柳大蔵(50),苅谷剛彦(51),「クレヨンしんちゃん」(51),苅部直(52),樺山紘一(52),カーティス(52)

さ行

渋谷陽一(42),シーザー(42),品川正治(42),ジョーンズ(43),坂村健(43),さだまさし(45),シュレジンジャー(45),佐藤俊樹(45),酒井邦嘉(46),園田天天光(46),佐藤みさ子(46),嶋田雄大(47),鈴木利廣(47),サルトル(48),佐藤郁哉(49),スティグリッツ(50),島田豊(52),佐藤藍子(52)

た行

多田富雄(41,50,51),竹下登(41),ドーア(42),豊田泰光(43),辻井喬(44),田谷禎三(44),田中耕一(45),土田武史(45),高橋英樹(46),ツォーン(47),竹西寛子(47),戸塚洋二(48,49),谷亮子(48),外山滋比古(48),ダルビッシュ有(49),手塚治虫(51),辻井喬(52)

な行

中原中(41),野口健(41),野中広務(41),中岡望(41),長井辰男(42),中西輝政(43),信吉正清(43),野村克也(43,50),内藤剛志(43),二木立(44,45,49),ノボグラッツ(44),西本幸代(44),野坂昭如(44),西成活裕(45),中野麻美(46),納屋幸喜(46),野村万作(46),中村憲剛(47),長妻昭(48),直木孝次郎(50),長沼健(49),野茂英雄(49),ネグロポンテ(50),ニーバー(51),野口悠紀雄(52)

は行

フランドマン(41),星野智幸(41),原健三(42),古田敦也(43),福島智(43),東君平(44),畑田重夫(44),比嘉公也(45),本田由紀(46,51),藤生京子(46),萩本光男(46),福岡伸一(48,48),平井伯昌(49),福田和也(50),フュックス(50,52),福山雅治(51),帯木蓬生(51),本田徹(50),早川一光(51),橋本五郎(51),ハイエク(52),パウエル(52)

ま行

村上宣寛(41),村上春樹(42),森光子(42),モイニハン(44),丸谷才一(44),松原泰道(44),マザーテレサ(45),本山美彦(45,47),メルトン(45),ルナール(45),マルクス(46),宮川大助(46),松本紘(47),松井秀喜(47),森岡正博(48),松本清張(50),益川敏英(51),増田一世(51),宮崎俊(51),森田実(52)

や行

山中正喜(42),山本昌(42,49),吉田正行(43),山田裕一(46),湯浅誠(48,49),米本昌平(50),吉永小百合(52),養老猛司(52)

ら行

李啓充(46)

わ行

渡辺久信(43),綿貫民輔(46),和田秀樹(50),ワトソン(52)